

平成 28 年度「豊岡市地方創生戦略会議」 会議録（要旨）

- 開催日時 平成 28 年 7 月 21 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分
- 開催場所 豊岡市役所本庁 3 階庁議室
- 出席委員 中貝座長、中嶋副座長、太田委員、永田委員、西垣委員、高宮委員、宮崎委員、木村委員、西池委員
- 欠席委員 石高委員、平田委員、村瀬委員、尾崎委員、岡本委員、笠原委員、佐伯委員、橋本委員
- 傍 聴 11 名

1 開会

2 中貝座長（市長）あいさつ

平田オリザさんの本を読んだ東京在住の 24 歳の方が、9 月から 4 ヶ月間、城崎温泉で仲居さんをしてお試し移住をする。この方は内田樹さんの大ファンで、平田さんの本の帯で内田樹さんの推薦文を読み、小豆島か豊岡に移りたいと思われた。海外から来た人に日本の文化を伝える NPO で働いている方であるが、両方に行かれて働く経済条件は小豆島の方が良かったが、豊岡にはアートセンターもあり、直感的に豊岡に決められた。幸い招月庭の社長が 1 週間後に面接をして「合格」とするとその反応が大変良く、お試し移住となった。たった一人のことであるが、こういう方が現に出てくる時代になっていると思う。兵庫県が東京にカムバックセンターを置いているが、カバンをやりたいという声はチラホラ入ってきているということで、過日、県の担当者が東京から豊岡に来られたということも聞いている。豊岡市役所の移住の窓口への問い合わせも増えている傾向もある。上手くやれば、こういった方々を上手く捕まえることが出来るのではないか。そのためには知恵を凝らし、時には悪さを仕掛けながら、しっかりと目的を達成していきたいと思っているところである。

中央教育審議会が専門職大学の制度を作るべしと報告をした。即戦力を育てる、例えば観光の分野では卒業後すぐにフロントに立てる人材を育てる 2 年制または 4 年制の高等教育機関で、卒業生には短大卒あるいは大学卒と同等の学位を与える制度が提案されている。早ければ 2019 年度にはスタートさせたいというのが文科省の今のところの考えだ。法律改正や設置基準の設定があるので、2019 年度に本当に出来るかどうか分からないが、チャンスなので、その時に実現出来るように豊岡ではすでに活動に入っている。豊岡にはすでに但馬技術大学校という職業訓練施設があるので、これをベースにパワーアップをして技能系の専門職大学を 4 年制でやってはどうか。あるいは観光コミュニケーションの系列、観光自体をトータルのコミュニケーションと捉えてしっかりと学んでもらい、卒業後、直ちに観光の分野で働ける人を育ててはどうか。さらに平田オリザさんからの提案では、アートマネジメントの劇場の経営と運営をやれる人材を育てるところが日本にはまだないので、たくさん学生が来るのではないか。教養部門では全員が必ずダンスや演劇を

学び、英語をしっかりと身に付けていくという提案をいただいている。県には内々の提案を伝えており、知事にも話をし、これから手順を追ってどこかの段階で共同の検討を始めることができると、今、県側といろんな話し合いを続けているところである。そういったことをやりながら、前回お集まりいただいた時には骨組みだけの動き始めたばかりのロボットがギクシャク動いているところであったが、少しずつ滑らかな動きになりつつあるかなということも感じていただきながら、先に行くための様々なご意見をいただければと思っている。

最近U I ターン戦略のためのプロモーションビデオを作成したので、このあとご覧いただきたい本題に入りたいと思う。

～プロモーション映像「飛んでるローカル 豊岡」～

3 報告事項

(1) 地方創生の推進体制

事務局から資料1に基づき説明

(2) 地方創生総合戦略第1版の推進状況

事務局から資料2に基づき説明

(3) 各種データの紹介

事務局から資料3に基づき説明

- ・ 副座長 外国人観光客が特に城崎温泉で増えているのは非常に喜ばしいが、この数字が、例えば、2020年までに豊岡市全体で目標の10万人のほとんどが城崎温泉に来たとして、城崎温泉が観光客をお招きする全体のキャパシティから見て外国人客になるとした場合に捌けそうか？例えば、7割が外国人客で3割が日本人客というようになるのか、ある程度、日本人客にもこれまで以上に来てもらえるし外国人客も増えていることになるのか、その辺りの感覚は？
- ・ 委員A だいたいざっと年間の宿泊は60万人ちょっとで、去年はうち3万人の5%が海外からとなっている。10%になっても6万人なので、キャパ的にはまだまだ余裕がある。一番我々が危惧しているのは、あまりにも海外の方が増えて日本人がちょっと嫌だと思われるら困るが、現在のところ団体よりも個人で来られているのでマナーが良い方が多く、日本人が外湯で嫌な思いをしたという話はほとんど聞かない。5万人まではまったく問題なく、10万人ぐらいまでなら十分今までの風情を保ちながらいけるのではないかと思っている。
- ・ 座長 ちなみに四半期ごとにとってみると、第1四半期の1月～3月までは、やはり東アジアが非常に多い。欧・米・豪が17%位で、第2四半期は40数%。去年はたしか東アジアより欧・米・豪の割合が多い。第3四半期は40数%。第4四半期で少し落ちて、年間で均してみると欧・米・豪の割合が33.4%で、この方々が個人客なので街の雰囲気壊していない傾向

が見て取れる。もともと城崎のインバウンドの戦略は、春と秋に来てもらうお客さんを増やすということなので、その意味ではちょうど狙いと結果が合っているという状況にあるかなと思う。

- ・ 委員A 2～3月にアジアの方が多いのは中国圏で春節の休みがあるので、その頃は非常に多い。国によって結構カレンダーが違うので影響が出る。最初は全然意識していなかったが、この時期はこの国の休みが多いんだなと少しずつ分かってきた。
- ・ 座長 2010年から2014年までの間に城崎温泉駅の乗降客数は12万人増えている。定期で増えているとは思えないので、往復だとすると実質6万人増。インバウンドの実質は3万1千人ほどなので、インバウンドの増だけでは城崎温泉駅の利用者増は説明できない。インバウンドの増が日本人の増を引っ張っているんじゃないかと想像できる。2015年も引き続き伸びているとJRの方が言っていたので、いい相乗効果になっているのではと推測できる。
- ・ 委員A 関西ローカルというところから、日本人の中でも首都圏から増えてきているのではないかと推測する。今までテレビは関西ローカルとか雑誌も関西の雑誌が多かったが、最近は全国版の雑誌やテレビとかが結構ある。首都圏や遠くの方はJRの比率が高い。宿泊人数は日本人全体としてはそんなに増えている感じがしないが、JR比率が高まっているとすると、首都圏や遠方のお客さんの比率が高まっているんじゃないかと接客をしてもそう感じる。
- ・ 委員B この前外国の方とのシンポジウムでコーディネーターをさせていただいた中で、温泉の話題がかなり時間を割いて出た。欧米の方をターゲットにするなら、人前で裸になる習慣がないのでタトゥーはOKになってきているけれども水着はOKになっていない。十数年前まで毎年オーストラリアから子供たちを連れて30人くらい城崎温泉にお世話になっていたが、半分は温泉には入らない。何故かと聞くと、「人前で裸になる習慣がないから駄目だ。」と。こちらに住んでいるALTもシンポジウムに参加されていたが、その方も「私は外湯で裸になるのは絶対無理だ。」とずっと言っていて、これはかなり根強いんだなと。国際化でどこまで迎合していいのか分からないが、ある程度、歩み寄らないといけないところがあるのかなと思いつながり聞いていた。やはりターゲットにするなら変化も必要かなと思った。
- ・ 委員A うちも外国の方が多いが、それほど極端に嫌がられているとは感じていない。貸切風呂があり、どうしてもという方はそちらを利用されていると思う。最初どうかなあと言っていた人も、うちのに入られるとすごく喜ばれてびっくりしたと言われている方のほうが圧倒的に多い。城崎温泉は水着で入るということは絶対にしない。そうでないと、今までの温泉文化が変わってしまうので、それに理解してもらえ方に来ていただくというの

が基本。どうしても裸になりたくないという方は貸切風呂などを利用して堪能していただけたらと思う。

- ・ 座 長 フランスに招かれていて、シンポジウムで日本の温泉文化について話してくれと言われているが、裸で入るところだとちゃんと言っておかないといけない（笑）
- ・ 委員A 移住の相談件数が増えているのは非常に良いことだと思うが、問い合わせのきっかけ、何々を見た、などというのは分かるのか？
- ・ 事務局 博報堂にプロモーションを委託し「雛形」や「コロカル」などのWEBマガジンに豊岡の記事をたくさん掲載していただいて、それをきっかけに問い合わせが増えた。
- ・ 副市長 問い合わせがあった時に、実際に何を見られたか聞いているのか？
- ・ 事務局 問い合わせをしてきた方に聞いているわけではない。
- ・ 座 長 ちゃんとデータを取らないといけない。

(4) 校区別人口推計

中嶋副座長から資料4に基づき説明

- ・ 委員C 但東町の方は、小学校区の移住促進と結婚促進のシミュレーション結果を見て、顔が明るくなり希望が持てるようになったのか？そういう要素を嗅いだのか？
- ・ 副座長 具体的な動きとしてはこれからで、どれくらい希望を持っていただけたかは定かではないし、そこまで実感として得られていない。例えば、今どう思われたか？希望になったか？
- ・ 委員C なかなかそこに魅力をとるか条件整備がないと、移住1件がすごく重たい。地元同士で結婚されていたりする方を知っているが、そうなると率が下がる。外から来ているわけではないし、子供が生まれても1にはなれない。希望はあると思うが、顔が明るくなるほどにはならないかなと思った。
- ・ 副座長 例えば、西気・清滝小学校区でも規模が小さいので移住促進シミュレーションの目標値を控えめにしたが、但東でもやっぱり年間1世帯も相当厳しいという実感があった。担当者に聞くと、但東町全体で年間1世帯あるかないかと言っていた。3つの小学校がある但東町だと1校区あたり1世帯ずつということで、これまでの実績を3倍に増やすということになるので。ただ、それくらい頑張ろうというようになっていただかないと、ということかと思う。
- ・ 委員C 地域の方だけの頑張りだけではとても無理で、やっぱり皆さんの応援がないとそれは可能ではない。豊岡小学校区で1世帯増やすのと資母小学校区で1世帯増やすのとでは、住民の頑張りが同じであっても、可能性としては同じようにはならないのは確かだと痛感した。

- ・ 座長 この4月の豊岡市農業スクールの入校生は2人だが、1年ごと最高3年まで毎月10万円の生活費を豊岡市が出しますと。認定農業者に受け入れていただいて、毎月2万5千円お礼をする。マックス3年までいける。2人とも但東に移り住んでいて、1人は神戸から20代男性で孫ターン、もう1組は吹田から30代夫婦で子供なし。2組ともコウノトリ育む農法をやりたいと来た。地域おこし協力隊も豊岡市全体では10人（竹野4人、城崎2人、豊岡1人、出石2人、但東1人）だが、もうすぐ11人目が但東に入って来られる。出石も可能性がある話があり、一つ一つ積み重ねではあるが、やりようによっては可能性がある。そこを信じて頑張るしかない。
- ・ 委員C 周りが応援して地域の人だけに任せるだけではとても・・・。
- ・ 座長 地域おこし協力隊に入ってきてもらおうと地域に影響力が結構ある。熱意があるという気がする。
- ・ 委員D グラフを見ると八代地区が気になる。八代はすごく小さいところだが、まちをあげて子育てに取り組んでおられると認識しているが、やはりそれはすごく影響があるということなのか？
- ・ 副座長 実はこれを作成してすぐに市のスタッフとか専門家に見ていただいて、最初に八代のことを指摘された。あまり認識がなかったので調べてみると、確かに地元で頑張っているということが一つあると思う。それから住宅の整備が進んでいるとか、それに合わせた開発も進んでいる地域があるということで、最近少し元気を増している地域ということが人口動態的にもフォーマルに表れていると理解している。ただ、これが最近だけの短いトレンドだけのものなのか、それとも、ここの推計に出てしまったように持続的なものなのかどうかは、これから見ていかなければならない部分ではある。もしかすると八代が過大評価になっているかもしれない。ただ、近年のトレンドでは非常に良い地域だということは間違いない。

4 協議事項

○ 総合戦略第2版説明

事務局から資料5-1～4に基づき説明

- ・ 副座長 戦略Bについてだが、かつて旧豊岡市が行った婚活イベントで結婚した成功事例があるので、こういうイベントがまったく無駄ではないと思う。ただ実際やってらっしゃるのを拝見してみないと分からないが、行政側が主導してやると、どうしてもなんとなくちょっと堅くなるというか面白くなさそうというか、やるのであれば、市役所の中でも、言葉の語弊があるのは承知しているが、市役所の仕事をしているより遊んでいるほうが好きみたいな方をあえて担当していただいた方が上手くいくのかもしれないし、あまりきちきちと事業を10回やろうみたいな形でいかれるよりは、

むしろ思いっきり遊んでやろうみたいな方にやっていただいた方がいい。会場に行ったら一番盛り上がってはっちゃけていたのは、実は市役所のスタッフだったというようなのが本当は良いのではないかなと思う。すぐ出来ることから着手しているということで、まだ時間をかけて取り組むことはこれからだ、ということは理解しつつも、根本的にはそちらのほうが重要になるかと思うので、そうなる豊岡の中で10代後半から30代前半の方はちょっと遊ぼうか、飲みに行こうかという時に具体的に何かあるのかと。みんながふと思いつくような、暇があったらあの辺に行って飲もうかというところを行政が一つ一つ作って回る訳にはいかないで、民間の方々と協働して、この辺りを若者がたむろしたり飲んだり、その中から出会いが出来たりというようなところを作ろうよと。すでに豊劇やコミュニティなども増えてきて、そこにまたいろんなことが連携して、若いヤツは残業なんかせずに飲みに行けという雰囲気はまちの中に生まれてきたらいいのではないかなと思ったりもする。

- ・ 事務局 若者を集めるという案も挙がったが、行政が入って行って今日は何人までということは出来ないが、そういう動きに対しても、ならしていくことはしていかないといけないと思っている。
- ・ 副市長 先生のご意見のとおり、役所で仕組みを作るところまでは良いかもしれないが、基本的には出来る人たちがこういうプログラムを実行出来るようにしていけば良いんじゃないかと議論していて、ではそういう人たちがどこにいて、どんな人が出て来てくれるのかと検討していかなければいけないと議論しているところだ。
- ・ 座長 平田さんは、偶然の出会いをする場所を作らないといけないと。
- ・ 委員A うちのレストランで「はーとピー」のイベントを1回やったことがあり、大変びっくりしたのは、男女とも浴衣を着てビールを飲んで非常に良い雰囲気で進められていた。毎回趣向が凝られ、中身がすごく練られていた。ただ、毎回24人も新しい人がいるのかと逆に心配だし、地元同士というのはどうしても限界が出てくるんじゃないかと思うので、男性が地元で女性が都会またはその逆とか、一番人口が増えるのは、外の方と知り合えるような機会があればいいかなと思うし、40歳より上の人も結構いるから45とか50とかに年齢を上げてもいいんじゃないかという話をした記憶もある。これだけ集まっているし、ここからどう次に行くかというところが成功までの出会いの場づくりになる。
- ・ 委員B 英語教育に携わっているが、昨年の英語遊びのオープンスクールに保護者の方が来られ、「わあ！素敵」という反応が得られて、次年度それを目当てにある程度来られるのかなと思ったら、それを目当てに来られた人も当然いたと思うが、利便性の部分で保育園の方が送り迎えが楽だということで、まだまだ英語だけでは弱いかなと思った。これからスパンが長いので結果を出していけばそれなりに認知度も出てくるとは思うが、スピー

ドアップさせるためには、コミュニケーションとふるさとに英語が話せる人がどう関わっていくかのかがポイントかなと最近思っている。例えば、ふるさとのことを英語でプレゼンテーションできる小・中学生が出てきてもいいし、その指導者というと学校の先生では難しいと思うので英語が話せる日本人がかなりいらっしやると分かってきて、そういった方にどんどん入ってきていただけるシステムで、こういった英語活動が早く広がるようにした方が認知度も上がって都会からも呼び込みやすくなるのかなという思いでいる。せっかくすごいプログラムが構築されているので。運動遊びの担当者が一緒になっているので、コラボで運動遊びも取り入れ英語遊びと連動してやっている。子供たちもとっつきやすい。英語だけ、ふるさとだけ、コミュニケーションだけじゃなく、これが上手く英語をベースに学んでいくとおもしろい展開が出来るんじゃないかと思っている。

- ・ 委員A 先ほどから話を伺っていて地区ごととか地域の人が希望を持てるようなことがないと駄目だと思う。実は、地域の希望を持てるネタがあるのにご存じないと最近また改めて思っている。ひと月ほど前、出石のそば組合の方に頼まれて城崎のインバウンドの話をしに行った。その時せっかくなので今までの城崎の街づくりの考え方の話をしたが、出石の観光業者の方ですらほとんどご存じなかった。初めて聞いたみたいな話が多くて、やっぱり知っているようで知らない。1週間ほど前、神戸で城崎の話をしてくれと頼まれて講演に行き、大学1年の息子を来させて話を聞かせたら、城崎のことをちゃんと理解していなかった。話を聞いて、「城崎ってええとこなんやなあ。」と子供が言っていて正直びっくりした。この間、豊岡の方がうちで働こうかということでお会いして、アートセンターや湊かなえさんの本の話をしたら、全然ご存じなかった。やはり、いい話やおもしろいことがいっぱいあるのに、残念ながらみんな知らないんじゃないかなと思う。市の広報があつて伝えられているとは思いますが、豊岡の鞆は何がすごいのかとか、出石の永楽館が復活してどういう意味があるのかとか、そういったこと一つ一つを実はみんな知らない。日本の中でも自慢出来ることがいっぱいあるのに、そういったことをまだみんな知らないんだなという気がしている。SNSで豊岡のことを伝えるのは外に出て行った学生とかだけじゃなく、豊岡市民、住んでいる人への伝え方を工夫していく必要があるんじゃないかと思う。広報の書き方やSNSなど何かの方法で、おもしろいよ、こんなすごいことがあるんだよと、もっともっと伝えることが一番重要なんじゃないのかなという気がする。そうすると、それを子供が知って将来帰って来ようと思ったり、自分の地元を自慢したいから市民がいろいろ言い出すとそれが外の人に伝わってUターンになる。もっともっと本当の豊岡の良さを地元の方に知っていただくようなことが必要ではないかと思う。

- ・ 座長 まったくそのとおり。今日最初に事務局から説明した資料1の2ページ

目「小学校から大学まで一貫してUターン戦略」はそういう問題意識で、もちろんSNSなども重要だが一網打尽に出来るのは学校教育だけ。もちろん聞いていない子もいるが、全員に語りかけるのが出来るのは学校教育なので、次世代育成戦略の中に、ふるさとのことをちゃんと教えるということは、一つはここを狙っている。そのためのガイドブック（副読本）を製作中で、その中には、コウノトリのような飛び抜けた授業であるとか、豊岡の優れたところを盛り込んでいこうと。学校教育の現場の中でカリキュラムとして入れていこうというのが一つある。今年は高校を順番に回ることになっているが、中学校の段階で必ず誰かが「こんなすごいまちだよ」と話しに行くのを仕組化しようとしている。なかなか知らないことがいっぱいあり、豊高に行っても、アートセンター知らなんだと言っている子がいた。

- ・ 副座長 最近テレビ番組でも外国人が日本のこんなところが良いとか好きと言う取材をして、なんとなく日本全体が日本の良さを再認識しようとする外国人の目を通してやろうとしているのが流行っているという風潮がある。なんとなく日本人は外から見ていただいて、そこが良いと言ってもらうと嬉しい、そこを通して自分たちのところは良いところなんだと認識したり深めていくところがあると思う。それはまちにも言えることで、たとえば城崎アートセンターなども市の関係者でこういうものやりましたと伝えよう伝えようとするよりは、こういうところで取り上げられましたということや伝えられる方が、市の中の人にとっては、外からも注目されているんだから良いことをやっているんだらうと、もう少しインパクトを持って捉えていただける部分があると思う。戦略の中にも、戦略の効果として何件取り上げられたとかSNS上でのそういったものをトラックしている様子が見えるが、こういったものも少し体系化したり効率化して市民と共有していくような工夫、パンフレットのようなものだったり市長自身が学校を訪問されたりはあるだろうが、最初のうちは去年1年間で豊岡市は対外的なメディアにこんな形で取り上げられたと一つのものに刷って小・中学校に配布するだけでもそれを見てまちの特徴があるのだと分かると思うし、もう少し中長期的にはそういったものがSNSを通して発信されたり共有される仕組みが出来上がっていくと良いと思う。当然、担当課はいつもすべてのメディアを探し回って記録を取ってらっしゃると思うが、そういうことを共有するだけでも随分違うんじゃないかと思う。
- ・ 事務局 メディアに載った数や媒体の種類は1年間まとめて記者発表という形では提供させてもらっているが、それがなかなか市民の方に届いていないという現実があるということや今再認識した。情報の出し方を検討していきたい。
- ・ 座長 ウェブ上に載っているものはHPに一覧を作ってみるという手はあるだろう。豊岡市側でアテンドしたり、段取りや誘致をしてニュースになった

ものを除いて記事になったものが去年1年間で80数件あった。現場は非常に頑張っていると思うが、そういうようなものを市民に伝えるという努力がまだ出来ていないところがあると思う。まだご発言をいただいている方がいらっしゃるのでは、ぜひこの際。

- ・ 委員E DMOがスタートし、竹野もたくさん来られている城崎の観光客の中に加えていただけるといので、点と点を結ぶ仕組みはすごく良いと思う。雇用の面でも、例えば、漁師さんは夏は暇にしているのでカヌーのインストラクターになってもいいんじゃないか、夏カヌーのインストラクターで忙しい人は冬はスキー場に行って働いてもいいんじゃないかと、年間雇用として成立出来るよう仕組みも作っていきたくと考えている。お客さんを誘致して豊岡のツーリズムを楽しんでいただけるようにすると同時に、ここに住む人が年間を通じて働いてきちんと収入を得られる仕組みがあったら良いと思っている。
- ・ 事務局 先日、野村総研の方の紹介でそういった短期間の仕事を上手にマッチングするような、例えば、夏場だけとか冬場だけとか夕方からとか時間を上手に繋げて仕事のニーズとシーズをくっつける支援をしている会社があり、紹介をいただいている。ジョブナビ豊岡という仕事を紹介するサイトを改修しようとしているが、それに合わせて期間限定・時間限定の仕事のニーズとシーズをくっつけるようなことをやっていきたくと思っている。ハローワークが取り扱ってはいるが、なかなか正直分かりづらい。終わってしまった情報がいっぱい載っていたり、具体的にどういう時間があるのか分かりづらくてヒットしない状況がある。そういうものを上手く繋ぎ合わせる技術であったり、仕事をしたい人がエントリーして会社側が24時間以内に返さなければアラームが行く仕組みで上手にされているところがあると聞いているので、それを採用するかどうか検討している。ちなみにその会社は、サービスは無料で行いたいと。大企業でいっぱいやっているの、豊岡の情報を何百件上げてもサーバーの負荷はこれぐらいしか増えないと。ただし、情報の入力はある側を探している側が入力する。そういうサービスがあるので取り組んでいきたい。
- ・ 副市長 先日企業から出てきた話だ。インターネット上の就職はハローワークでやっているが、古いデータが多いのと期間限定や時間限定だとか、仕事の内容そのものがどんな内容で、どこで何時間とかそこまできちんと書かれている要素はあまりなくて、それを繋げていくと、今言われたような冬の期間スキーのインストラクターが要る、それに対して自分は仕事ができる、みたいなマッチングが出来るようなサイトが出来るんじゃないかと。すでにシステム自体は出来ているので、お貸しするので豊岡市でやりたいんだっただけですぐにでも使えますよという話があった。
- ・ 委員E それは今度出来るホームページに設置されるのか？
- ・ 副市長 システムそのものを豊岡市として導入して出せるかということを検討し

ないといけない。

- ・ 事務局 もちろん今度出来るホームページとは繋ぎ合わせはするが、どのように繋ぐのかというのはきちんと詰めないといけない。
- ・ 委員E そのホームページの立ち上げは秋と聞いたような気がするが、冬に向けての但馬は暗いイメージで、できれば今出来かけでも良いのでバーン！と上げて明るく夏に向かうイメージで売っていきたいというような意見をチラホラ聞いたりするので、枠組みだけ出来ていたら、早く立ち上げて欲しい。
- ・ 事務局 枠組みは既に出来上がっていて、これから始まりますよと明るいイメージで。
- ・ 座 長 自分のところで具体的にこんなことをしたいというのがおありになるんだろうが、一般的な仕組みとして、それを採用するかどうかという話なので、後は場外で話をしていただくと、もう少し突っ込んだ話が出来るかと思う。
- ・ 委員F 英語の話に関心があって、ところが私はまったく英語が嫌いではないが駄目で喋れない。まったく駄目だがどうしても海外に行きたくて、思い立って6月にニュージーランドへ一人旅をしてきた。行ったら英語が通じ、身振り手振りで片言の英語で受け入れてもらえるし、こちらも一生懸命に喋ろうとするし、帰って私はなんで今まで英語をしゃべろうとしなかったのかとずっと考えていた時に、自分の英語のイントネーションや文法を違ったら恥ずかしいという気持ちがあったが、向こうでは一切考えなかった。むしろ向こうでは日本人ガイドの人と自分の英語力の話、当時子育て広場にまったく日本語が出来ないフィリピンの女性が甥御さんを連れて来ていて、その方と身振り手振りでしゃべっていたらもっと英語が話せるようになりたいなと思ったのが旅のきっかけになったことなどを話していたら、「あなたの前に日本語が片言しかしゃべれない人が来て、片言でも一生懸命しゃべっていたら嫌な気がするか？ ニュージーランドの人にとっても、あなたの片言でもなんでも伝えようとしているのはすごくウェルカムで好意的に受け止めて、みんなあなたを受け入れようとしている。」と聞いて、なるほどなど、その言葉は大きかった。帰ってきて、本当に滅茶苦茶だが、うちの職場は挨拶はみんな英語。Good morning や Thank you とか簡単な言葉だが、そんな簡単な言葉でも使っていなければしゃべれない。使い出すと、うちのスタッフは家に帰っても英語を使い、小・中学生の子供でもお母さんの言葉に英語で返したりする。英語が当たり前である環境がどんどん増えていったらと思う。一方で、恥ずかしいとか間違ったらどうしようとか根強いものがある。これは豊岡だからなのか日本人だからなのか分からないが、そういったものを払拭する一つに教育の力というのは大きいんじゃないかなと思う。今度職場に外国の高校生が来るかもと聞いているので、来たらぜひ挨拶だけは英語でしたいとスタッフの目標に

している。

それと、東京や大阪への研修に列車で行こうと思ったら、6時前の北近畿がなくなっていた。5時半の普通列車に乗って福知山で乗り換えないと大阪に9時に着く便がなかった。どうしようと思っいろいろ調べたら、福知山まで出ると福知山からバスで1,500円までで大阪へ、三宮には1,700円で行けたり、夜にバスで東京まで行けてすごく便利だ。改めて思ったのは、地方創生、地方創生と言ってどんどん進んでいるのに、一方では北近畿が無くなっている。この15年で出雲や大山が無くなって、北近畿も早いのが無くなりどんどん不便になっている。無くなっていくのは仕方がないところがあるなら、今あるものをもっともっと上等にしていく手立てというのを考えていかないといけないんじゃないかと思う。最初に見た映像（「飛んでるローカル豊岡」）を自分で見たとき、豊岡の見慣れている風景が角度を変えて映すだけでこんなに綺麗なのかとすごく感動した。本当に fantastic! 良いところをもっともっと膨らまし、誇張したりするんじゃない、良いんだからその映し方とか表し方の研究をしていかないと無くなってしまうものがあるかもしれないかなと思う。

・ 委員G

暗い現実を結構見ているので、これを見ながらネガティブなことを考えていたが、ここで話を聞いていたら明るいんじゃないのと。私が見ているところが特別なのかなとちょっと思ったりして、ひきこもりとか不登校がどんどん増えていくイメージがあるが、こういう教育プログラムが進むと無くなっていくのかなと思ったりもする。今の中・高生がそういう状況なのか、分析が出来ているのか原因が分かっているのか分からないが、今いろいろ聞いていると大丈夫？というか、結婚にこぎつけるところまで行ける人が減っているし、働くというところから離脱する人も。何でこの人が働いてないの？という人が来られていて、ちゃんと就職されたりもするんだけれども。この戦略で大丈夫？もっと暗くなるのでは？と去年はなんとなく思っていたが少し安心した。学校教育のところがすごく気になって、すごく良いプログラムが並んでいる。コミュニケーションとパッと聞くと浅い感じがするが、すごく狙いが深い。ただ、大きくなって潰れていくのを予防する何かちょっと物足りない気がする。大人で潰れてしまった方はどこかで再生していかないといけないし、まだ学校の段階でうつ病予防みたいな観点で取り組むものがあるんじゃないかと。授業そのものでなくても、いろんなことがプログラム化されて、それによって評価を伴うものが出てくると失敗できないとか、それがますます強くなって、失敗を許容できるというのが子供の頃にないと後々いろんな事で響いてくるような気がして、ガチガチと詰め込むことで、そっちの方が脆くならないかなという心配がちょっとある。そのへんを上手いこと考えていただいて。ITの話は素晴らしいなというか、私は十何年前に辞めたけれども、今頃こんなことが始まったのかという気がするが本当に大事なこと。市役所で正式に

されて良いと思う。在宅ワークは安い割にITスキル以外にいろんな高いものが求められる世界だと思うので、上手いことフレックスな感じで人と出会ったり、リアルで会うような形を保ちつつ、家でも出来るみたいなフレキシブルな形でいくと上手くいくんじゃないかと思う。

- ・ 座長 最後これだけは言っておきたいということがあればどうぞ。
- ・ 委員D 戦略目的B01-03の「若者が集い、交流する場が増えている」というところが、ハートリーフ戦略室から外れてスポーツ振興課とコミュニティ政策課となっている。実際婚活パーティーとかに参加するという意欲がそもそもない人が多いんじゃないかと思う。私の周りにも独身の方がおられても、婚活パーティーには行ったことがないという方が結構多い。でもコミュニティ政策課等がされるようなスポーツイベントや文化サークルだったら参加される方も多と思う。カップル成立数を目的としてこういうイベントをするのはもちろん大事だと思うが、もっとそれ以前の若者たちの交流する場を増やすところにももう少し力を入れたりお金を落とし込んだりしてもいいんじゃないかと思う。
- ・ 座長 戦略として挙がっているのでやらなければならないという認識はあるが、ただ、上手い方法が見つかっていないのが今の状況。バタバタと何かやるということではなく、よく分析したり狙いを定める必要があると思う。できるだけ早くこの中に具体的に盛り込みたいと思うが、今の状況としてはこのとおり。

5 その他

- ・ 座長 細々したことではあるが、だいぶ動き出しているという感じはお持ちいただけたのではと思う。試行錯誤をしながら、まとめると、市民の皆さんの力を合わせていきたいと思っている。

一つ紹介をしたい。この秋にワーナーブラザーズの『ストークス』という映画が全米で9月22日に封切になる。『ファインディング・ドリー』と『ファインディング・ニモ』をディズニーでやった同じ監督で、日本では『コウノトリ大作戦!』という邦題で11月3日から封切になる。ネットで『コウノトリ大作戦』と検索していただいたら、プロモーション映像が出てくるので見ていただいたらと思う。コウノトリ宅急便は赤ちゃんを運ぶことを禁じられていて、小包しか送らないというルールが会社が赤ちゃんを運んでしまうという物語。日本でプロモーションを担当しているのが博報堂で、豊岡市のUIターン戦略を今一緒にやっているのが博報堂。映画のプロモーションをやっている部署に、豊岡はコウノトリのまちで、こういうストーリーを持ったまちだという情報をまず入れてもらうことにして、出来るだけ早くうちの担当が会いに行き、映画のプロモーションとコウノトリのまち豊岡のプロモーションが何か一緒に出来ないか探ることになっている。上手く出来るかどうか分からないが、ちょっとそういう動き

があると。

～プロモーション映像『コウノトリ大作戦!』～

9月22日は、ちょうど僕がニューヨークにコウノトリの米を売りに行っているところなので、良いタイミングだなと。もし日本で大ヒットすると、子どもたちがコウノトリを見に行きたいと言うかもしれない。その時にJR特急こうのとりに乗って豊岡にコウノトリ見に行こうというツアーが出来るかもしれない。

すでに事業は決まっているので、今日のことを踏まえたうえで、再度洩れがないか検討し、第2版の地方創生戦略を主として発表させたいと思う。いろんなチャレンジをするので、また折を見て声を掛けさせていただいてこんな会を持ちたいと思っている。その時はよろしく願いしたい。

6 閉会